

就将公民館 令和5年3月 図書室に新しい本が10冊入りました。

タイトル	著者	内容
『この世の喜びよ』 第168回芥川賞	イド カワ イコ 井戸川 射子	幼い娘たちとよく一緒に過ごしたショッピングセンター。喪服売り場で働く“あなた”は、フードコートの常連の少女と知り合い。。。表題作など全3編を収録した小説集。
『荒地の家族』 第168回芥川賞	佐藤 厚史	あの災厄から十年余り、男はその地を彷徨いつづけた。 元の生活に戻りたいと人が言う時の「元」とはいつの時点か——。40歳の植木職人・坂井祐治は、災厄の二年後に妻を病気で喪い、仕事道具もさらわれ苦しい日々を過ごす。・・・。
『しろがねの葉』 第168回直木賞	チ ハヤ 千早 茜	戦国末期、シルバーラッシュに沸く石見銀山。 天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と未知の鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き出す。
『70歳80歳を笑顔で超える生き方』	和田 秀樹	高齢者医学の第一人者である著者によると、長年の臨床経験から「このタイプは老けるのが早い」、「このタイプはいつまでも若い」がわかるようになってきたという。本書は、そこから導きだされた若さと老いの鉄則を明らかにする。
『日本史を暴く一戦国の怪物から幕末の闇まで』	磯田 道史	知っているつもりの日本史も史料をもとに読みなおせば、新たな面が見えてくる。松永久秀が大悪人とされたのはなぜか、鼠小僧は義賊ではなかった？、最後の女性天皇はいかに譲位したか、孝明天皇の病床記録はなぜ漏れたのか——。
『マンガぼけ日和』	矢部 太郎	『大家さんと僕』『ぼくのお父さん』など話題作を生み出してきた著者が、認知症患者とその家族の日常を描いた！ 認知症の症状の進行具合を四季（春・夏・秋・冬）に分けて、それぞれの時期に認知症患者さんにどんな変化が起こり、介護者さんはどう対応したら良いのかがわかる構成。
『弘兼流 60歳から、好きに生きてみないか』	ヒロカネ ケンシ 弘兼 憲史	これからは、人生で「今が一番楽しく、面白い」
『ああ面白かったと言って死にたい』	佐藤 愛子	愛子センセイ、もうすぐ99歳 人生が終着駅をめざして速度を落としていく…… 老いとは？ 死とは？ 幸福とは？ 波瀾万丈の人生から紡ぎ出された 感動のラストメッセージ
『90歳になっても、楽しく生きる』	樋口 恵子	ヒグチさん90歳！ 老いを受け入れ感謝しつつ、言うべきことは言っていく。
『写真が語る 米子・境港・西伯・日野の100年』		

就将公民館図書室に置いています。

備え付けの貸出票にご記入の上、2週間借りていただけます。

どうぞご利用ください。